

閉会の辞

終戦80年を迎えた本日、この地において、慰霊祭を無事執り行うことができました。御多忙な中、多数の皆様の御参列を賜り、心から御礼申し上げます。特に、本日、御参列賜ったフィリピン政府等の皆様に感謝申し上げます。

先の大戦では、ここフィリピンで日本人50万人、フィリピン人100万人を超える数多くの方々が尊い命を落とされました。そして、ここカリラヤの地に戦没者の碑が建立されてから半世紀余が経過しました。この碑の前に立つ時、当時、祖国に残された家族を思い、祖国日本の行く末を思いながら、熾烈な戦いに傷つき、飢えや病に苦しんだ方々、再び祖国の地を踏むことができなかつた同胞の方々の無念さを改めて想わずにはられません。また、同様に、日本と米比間の戦闘によって、犠牲となった数多くのフィリピン人の方々、日系人の方々、そしてその御家族の苦悩と計り知れない悲しみも、我々日本人は、決して忘れてはなりません。そのような全ての戦没者の方々の御霊（みたま）に対し、謹ん

で追悼の意を表します。

未（いま）だ帰還を果たされていない多くのご遺骨のことも、決して忘れません。一日も早くふるさとにお迎えできるよう、国の責務として全力を尽くしてまいります。

戦後、日本は、世界の中で平和を重んじる国として、名誉ある地位を築いて参りました。戦争の惨禍を二度と繰り返さないとの決然たる誓いを貫き、万人が心豊かに暮らせる世界の実現を目指して参りました。

他方、ロシアによるウクライナ侵略という国際秩序の根幹を揺るがす暴挙は、3年半になろうとする今も継続しています。中東では、ガザ情勢をはじめとする緊張が続いており、地域の安定化が見通せない状況となっています。我が国を取り巻く安全保障環境は、戦後最も厳しく、複雑な状況にあります。

このような時であるからこそ、80年の歳月が経った現在、改めて、戦争の悲惨さと平和の尊さを深く心に刻み、その記憶を風化させることなく継承していくことが重要です。

戦後、日本とフィリピンの関係は、両国国民の友情と共

通の価値観に支えられ、今や黄金時代とも称される強固な協力関係を築いてきました。戦後80年となる現在、両国の友好・協力関係は経済や安全保障、社会、文化など幅広く裾野を広げ、日比関係の新たな時代の到来を感じさせるものとなっています。苛烈な歴史を乗り越え、このような友好協力関係を築けたことを、戦没者の方々の御霊（みたま）に御報告するとともに、両国の絆をより一層堅固なものにしていくべく、一層の努力を続けることをお誓い申し上げます。

最後に、尊い命を捧げられ、祖国の礎となられた幾多の方々の御冥福を改めてお祈りするとともに、御遺族の皆様、参列者の皆様、在留邦人の皆様の平安、並びに日比両国間の一層の友好親善を祈念し、慰霊祭の閉会の辞といたします。

令和七年八月十五日

駐フィリピン日本国大使 遠藤 和也